

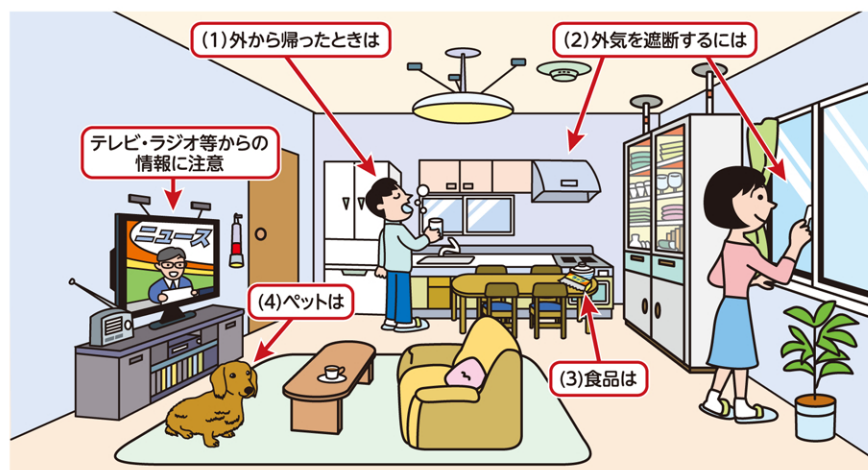
# 「屋内退避」指示で取るべき行動

## 屋内退避が安全への第1歩

屋内退避することで、建物の気密性と遮へい効果により、放射線による影響を回避したり、低減させることができます。

屋内退避の指示が出た場合は、屋外にいる人は、自宅や近くの建物の中に入って下さい。

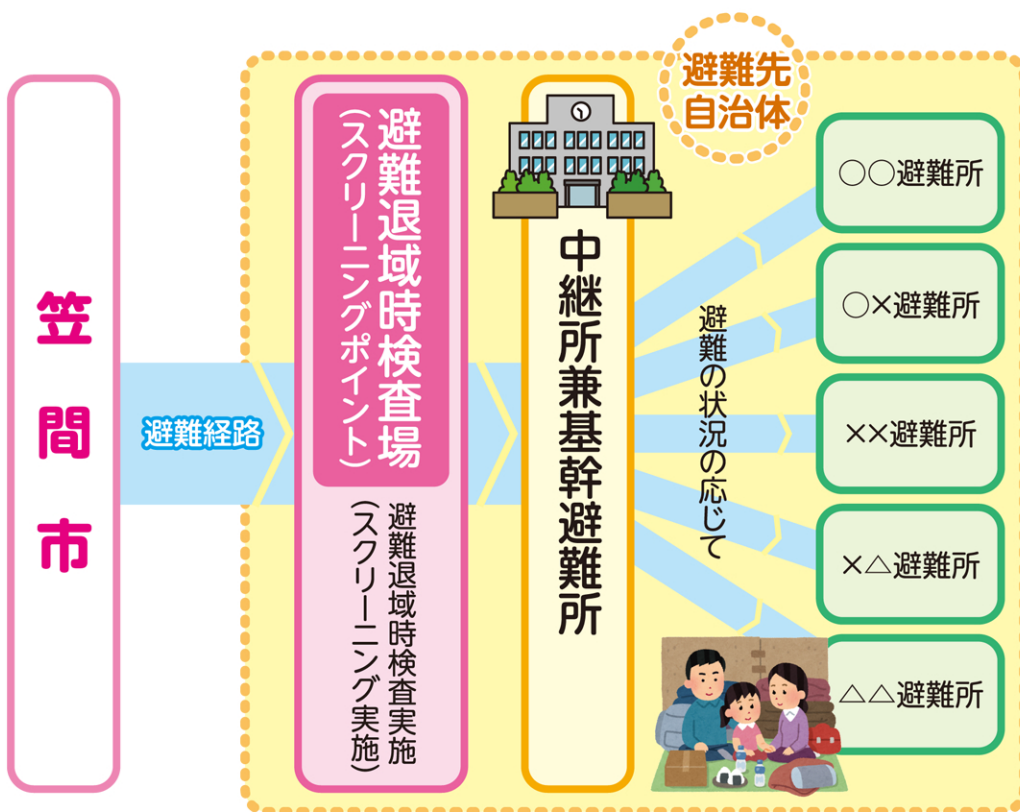
そして、防災無線放送、市ホームページ、テレビ、ラジオ等の情報に注意し、市からの指示があるまで、外出は控えて下さい。



### ポイント

- (1) 外から帰ったときは、顔や手を洗い、うがいをしましょう。
- (2) 外気を遮断するには、換気扇を止め、窓やドアを閉めましょう。
- (3) 食品は、フタやラップをして冷蔵庫や戸棚に保管しましょう。
- (4) ペットは、屋内に入れましょう。

## 【中継所兼基幹避難所のイメージ】



# 事態の進展

(注)  
AL: 警戒事態  
SE: 施設敷地緊急事態  
GE: 全面緊急事態

## EAL (AL)

### 1 警戒事態 【警戒体制の構築 (参集、情報収集、拠点間の連絡など)】

- 判断する事象の例
- ・大地震(所在市町村で震度6弱以上)
  - ・所在道府県に大津波警報が発令された場合など

## EAL (SE)

### 2 施設敷地緊急事態 (原災法10条) 【防護措置の準備を開始】

- 判断する事象の例
- ・原子炉冷却材の漏えい
  - ・全ての交流電源喪失(5分以上継続)
  - ・原子炉停止中に全ての原子炉冷却機能喪失など

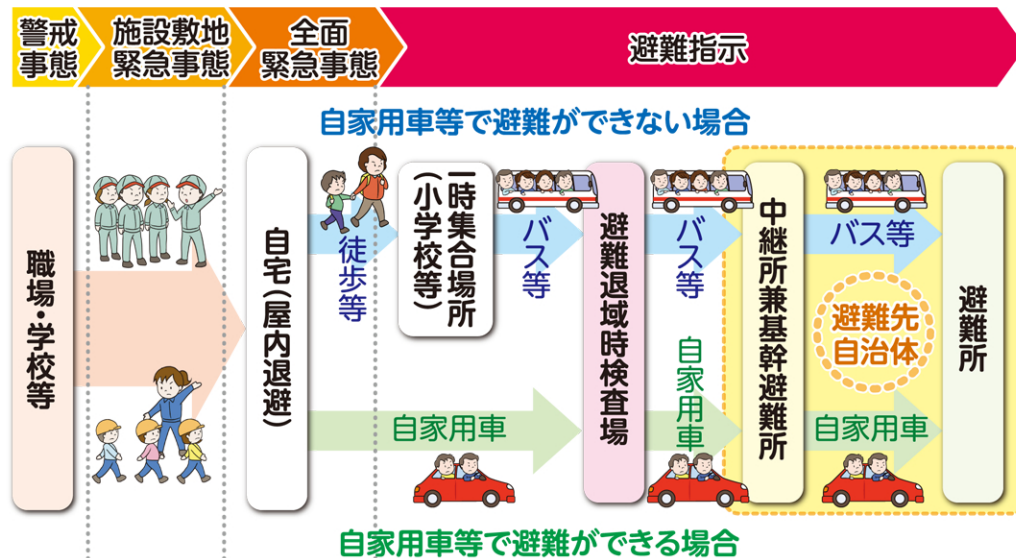
## EAL (GE)

### 3 全面緊急事態 (原災法15条) 【防護措置を実施】

- 判断する事象の例
- ・全交流電源の喪失
  - ・全ての非常用直流電源喪失(5分以上継続)
  - ・非常停止の必要時に全ての原子炉停止機能喪失
  - ・敷地境界の空間放射線量率が $5\mu\text{Sv/h}$ (10分以上継続)など

## 広域避難のパターン

### 【原則】



### 【帰宅が困難な場合】

